

|                  |                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | はじめに：アート・センター開設10周年記念からさらに一步を(芸術のロケーション)                                                                                                                                                                                  |
| Sub Title        | Preface(Locations of Art)                                                                                                                                                                                                 |
| Author           | 前田, 富士男(Maeda, Fujio)                                                                                                                                                                                                     |
| Publisher        |                                                                                                                                                                                                                           |
| Publication year | 2004                                                                                                                                                                                                                      |
| Jtitle           | Booklet Vol.12, (2004. ) ,p.3- 4                                                                                                                                                                                          |
| JaLC DOI         |                                                                                                                                                                                                                           |
| Abstract         | (Locations of Art)                                                                                                                                                                                                        |
| Notes            |                                                                                                                                                                                                                           |
| Genre            | Journal Article                                                                                                                                                                                                           |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11893297-00000012-04211309">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11893297-00000012-04211309</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## はじめに

——アート・センター開設10周年記念からさらに一步を——

「アート」という文字を眺めていると、その広がりや境目に想いいたる。境目といっても、ゆるやかで曖昧だ。けれども、芸術、と書き換えると、にわかにその広がりや境目に区画線が浮かびあがる。美術、文学、音楽、演劇、というように。きちんと空間芸術から時間芸術、時空間芸術へと整理してみせてくれる。あるいは、美術となると、絵画・彫刻・工芸・デザイン・建築。こんどは平面から空間へ、という空間の分節が私たちの脳をくすぐる。さて、あらためて「アート」に眼をやろう。私たちの知性の得意なオート・フォーカスもためらいがちに動くしかない。

べつだん外来語表記に関心をもつわけではない。しかし「アート」は、興味深い考察対象なのだ。アートは本来、ラテン語のアルス、ギリシア語のテクネーに由来するから、「技術」とみなしてかまわない。技術とはなにか。技術とは、自然から与えられた素材、つまり草や木、石に私たち人間が身体を媒介として働きかけ、ひとつの制作品をつくることである。料理、裁縫から造船、建築にいたるまで、すべて技術の成果にはかならない。

私たちは、こうした技術の成果、あるいは技術の手続きのいくつかを「芸術」として区分けしてきたわけだが、こうした歴史／物語は、いま大きく変貌しようとしている。「芸術のロケーション」を問うゆえんである。

料理や裁縫から建築に、をグルメ、ファッションからアーキテクチャーに、とまたまた外来語表記してみればよい。現代文化における芸術／技術の再編成が浮かびあがるだろう。ファッション・メーカーの素晴らしい建物のなかで、画家の手になるバッグを手にとることは、新しい重要な歴史／物語なのである。あるいは、コンピュータを考えてもよい。コンピュータは、自然から与えられた素材を使用しない点で、まったく特異な技術作品である。それは、人間が生みだした最初の、技術を逸脱した技術なのだ。その意味でコンピュータは、ハイ・テクではなく、ポスト（脱）・テクネーと呼ぶべき装置である。したがって、ここでも芸術／技術の変革が急速に進行しつつあることは、確認するまでもない。

とすれば、「アート」概念のゆるやかな広がり、現代の文化状況をとらえる有効な概念装置たりえよう。1993年、慶應義塾大学が新しい領域横断的な文化研究をめざして附属研究所を創立するさいに、アート・センター

という名称を採用したのは、そうした展望をもっていたからである。若林真所長をついで1995年から2003年9月までアート・センターをリードされた鷺見洋一所長は、この研究所の取り組む「アート」が美術、文学、音楽、演劇といった個別のジャンルではありえず、また人文科学にも限定されず、社会科学、自然科学、情報科学にも接続する芸術活動と文化環境にほかならないと唱導し、現在のアート・センターの活動を方向づけた。

慶應義塾大学アート・センターは1993年10月に開設されて以来、第一に年次企画事業（シンポジウム、ワークショップ、レクチャー・コンサート、研究フォーラムほか）、第二に中期的な受託・共同事業（地方自治体とのアート・マネジメント事業など）、第三に長期的な研究会活動（アート・ドキュメンテーション、アート・マネジメント、映画理論、感性教育、トランス文化ほか）、第四に講座設置（「アートをひらく」ほか）、第五に塾内所蔵作品保存業務（調査、修復、保管など）、第六にアーカイヴ（ノグチ・ルーム、土方巽、瀧口修造、油井正一）、第七に他機関との諸プロジェクト共催・協力、第八に出版活動（年報、ブックレット、図録ほか）、などを展開してきた。こうした活動は、多くの方々の熱意あふれるご援助をぬきにしては考えられないものばかりである。お名前をあげる余裕がないことをお詫びしなければならないが、ただしアーカイヴ設立にご援助を賜った元藤燐子、鈴木陽、油井正太郎諸氏には記して謝意を表しておきたい。これからも、これらの活動をより充実させて、さらに一步をふみだしたい。

アート・センターは2003年10月に開設10周年を迎えた。この「ブックレット」は大学附属研究所の紀要に相当する研究誌である。10周年にあたって特別な行事は開催せず、11号と12号を同時に刊行して記念とした。

これまでアート・センターにご協力ご支援をいただいた学内外の方々、また塾生諸君に御礼申しあげるとともに、今後ともより一層のご指導とご援助を賜るようお願い申しあげる次第である。

慶應義塾大学アート・センター所長 前田富士男